1 (为60号)	広	報	Ŧī.	城 目	昭和37年5月20日	1 (日曜日)
<ul> <li>五月の税金</li> <li>国民健康保険税</li> <li>第一期</li> <li>納期は5月末日です</li> </ul>	最近は人手不足から省力 にかわったが、田うえだけ にかわったが、田うえだけ		ちちめたものである。と記、一五月日うえることさかり、一五月日うえることさかり、「早苗月」というなる故に早苗月というをあ	さ つ き 五月を別名「さつき」と	一次一般了 一般了所 秋田県王城目 (個部 能代語:	して、 して、 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の
五月三日、産業育成功組者と して、貴提便高がおくられた。 福澤高大工規製、産業育成功組者と を業を通じて、プナ材の時にの模 海であったもの。 著であったもの。 著であったもの。 市小企業を通じて、プナ材の時にの模 板分野の時にの模 に力組が顕 者でしてのスタート は、十二歳より切られた。 一、小学校六年卒業。 二、十二歳より灯られた。 「 十二歳より大工規型として		朱ある黄綬褒章を受賞	全国民から親しみと感謝の念を総和のうえに有終の美を飾り、居上小畑畑事は、国体が県民上式をすすめられた。	、 動学の 植物工作 な 動で して して して して して して して して して して	知事はじめ、秋田宮林局長、五 「加」になった。 「加」になった。 「加」には秋田宮林局長、五 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「加」になった。 「加」になった。 「加」には秋田宮林局等 「加」になった。 「二、 「加」になった。 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、	を記念して ておったとした でおったく見ため、明日 単
人となる。 しての公共的の素紙に当 しての公共的の素紙も大き かった。 しての公共的の素紙も大き がった。 しての公共的の素紙も大き に、二十八年、木材利用合理化 一、製材業を経営のかたわら、 現在までに、高工会長、なり 、二十八年、木材利用合理化 一、一、製材業を経営のかたわら、 一、製材業を経営のかたわら、 二、五城目町信四期、同動役を 歴任、二十四年に県職批化当 一、一、製材業を経営のかたわら、 四洋税制合用金用金属、五 一、製材業を経営のかたわら、 四洋税制合用金属、五 一、型、二十八年、木材利用合理化 一、一、製材業を経営のかたわら、 一、一、製材業を経営のかたわら、 二十八年、木材利用合理化 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	石油、宝田石油等の指定商祥樽等納入を薬どして日本材、石油アスファルト用、材、石油アスファルト用、	人 じょどうねぎキ、曾と乱四、二十三歳より建築工事請負働き、	いた。 いた。	現地の一角には「第十六回国現地の一角には「第十六回国党本局長、五城自町長の記念植えた。後って、小畑知事、秋田之、参列者一同約一○ア村のあと、参列者一同約一○ア村のあと、参列者に感銘を与		eff 林で 植 出 したのである さってたたえられた を計画したのである ため、 この歴史的な ため、 この歴史のな ため、 この歴史のな ため、 この 歴史のな したのである ため、 るするため、 るするため、
行政苦情相談協力委員の設置のお知らせ 行政上の国リごと相談を一切円満に解決している秋田行 祭局(秋田市上中域町10電話④4512)では37年4 日付で当町から畠山氏が協力良に委嘱されましたので、 上の困りごとがありましたなら、なんでもかまいません 同委員に御申出なれば、同委員が秋田行政監察局に連続 早急処理されることになっておりますから御利用願いま (一切無料です) 相談の内容は、官庁や公社、公団、公庫などで取扱って 仕事のことで何んとかして欲しいと思う苦情、例えば4 渡、母子福祉、農林漁業、中小企業、住宅等の公庫資金 の問題、農地開拓関係、労災保険関係、感給遺族扶助林 郵便物や国鉄関係、登記の問題、塩、タバコ専売の問題 んな小さな問題でもかまいません。ただし、県市町村の 事務や民事、刑事に関する問題は除かれます。 行政苦情相談協力委員 畠山元太郎 現住所 五城目町字上町267 テンワ 16番	またおはめをいただけるたよ いか し す い	くの辛抱をお願いしつづも、一 時、関係庁はもちろん本町並にると思っているが、いましばら とは昨秋、北秋間のパス閉通当であんには申訳ないことであ 装しの実現運動がある。このこうがよりよりにも見つてる			「五城目八郎潟」間の 道路整備計画の話題 油	(植树风泉)
である。 したり、真摯な一本 で、われわれら県道に直結する管内それ で、われりに直結する、二、一部の一部の一部の一部の したり、真摯な一本 で、しかし、この五城目) で、しかし、この五城目) で、しかし、この五城目) で、たち、二本面を受持 つ、われり根道と考えても、土本面を受持 である。しかし、この五城目) で、たち、二本面を受持 であるなば、 たいの五城市の に至るまで、 の五城市の に至るため、 たいの五城市 に である。 しかし、 たの五城市 の たいの五城市 の に での五城市 の たいの五城市 の の の の の たいの たいの の の たいの たい	一般産業道路としての真坂線、つある森岳線、馬場目線、またである森岳線、馬場目線、また源の開発に益々活用度を高めつ結びつき、なおまた奥地林産資	交流した県道秋田~大館線とのだすぐ隣りまで延びてきた新国	<b>着々と進捗する八郎凋干拓、まある。</b> この110日で、110000000000	は、中員拡大し、急カーブを のの除去、なおまた、道路とし 物の除去、なおまた、道路とし なの効用を一○○%発揮し、五 ての効用を一○○%発揮し、五	a の の の の の の の の の の の の の	<b>季節のあゆみ</b> 第300年になった。貧しいわが 次の廃せたのあたり がは、いま、パンデー したっかい炭ささかり
ます。したでおります。 これで和めやすいように分けてあります。 これで和めやすいように分けて、 の一期間の理解と協力はもとよりであ うれで和の収入が必要であります。 これで和の収入が必要でありまし、 海気についてはた記の点にご留 の理解と協力はもとよりであ りますが、組合長はじめ、組合 しかしておしております。 これで和の収入が必要でありまし、 とれて納めやすいように分して でありまし、 のが必要でありまし、 とれて組合 にたかの収入が必要でありまし、 とれて組合 にたかの収入すためには を記の点にで留 の にたかの収入すためには を記の点に た 部 りますが、 名信の に た の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の 第 名 に の の 第 名 に の の 第 ろ に の の 第 ろ に の の が ます。 の に つ に た の に る に の の が る に の に る に の の の に る に の の の の の の の の	○%完約されまして、栗く痰射税成績はほとんどの組合が一○いた日本一○約税組合の約	気軽におさめられる納税組合	路の面に関しての御理解ある鋼ておるので全町の皆さんから道ておるので全町の皆さんから道「デコボコ道」の解消に対し		しみが待ちうけている。 (三)前住民課長記) - martine	We want and a second
組 今 し た 著 税 準 🛛 税 🕅 税 🕅 さ 三	コ) 灯苑の密朗とついて 金は三割程度です。 ますと納期限内に納付される税	れる納税組合 日	次第であります。 次第であります。	~町水稲直播栽培が ~草皆茂吉試験田 ~行われた。		◆馬場目坊井地殿公 ◆馬場目坊井地殿公 ◆馬場目坊井地殿公 ※設個所はつぎのとおり。 ※定個所はつぎのとおり。

見三日の名	広報 の代の営業 の注意新5古 雀	五 城		昭和37年5月20日 改成区な年成し近 地委果でにし 主要権 業会会を注 、	(日曜日) る大る いき頓近	<b>2</b> 地五
『館の北意へに を いた に し に し に し に し に し に し に し に し に の た 出 気 中 央 査 子 年 前 の 古 井 戸 中 男 子 年 前 の 古 井 戸 中 男 が ろ 中 み 市 子 に の 古 子 に の 内 の 古 の 古 の 子 の ろ の ろ の ろ の ろ の ろ の ろ の ろ の ろ の ろ	委前	<ul> <li>(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)</li></ul>			るい希望のもとに育まれる、社大きな原因の一つであると思わる傾向にあると言われているが知れているが	☆☆ 少年保護 五城目地区少
介先生は次のように語っている。しかし泉とでも出ている。しかし泉とのものは非常に参しい細文晩期の、黒色土器の目なども出ている。土や土偶の首なども出ている。土や土偶の首なども出ている。土のもので、横浜 前都満 いんしている。またのものと酷似している。またのものと酷似している。またのものと酷似している。土のものと酷似している。土のものと酷似している。ため、おいのものとも出ている。ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、ため、た	中 医りの古井戸 委員調査に来城す 方に組まれている。組み方は文 方に組まれている。組み方は文 の大力に組まれている。組み方は文 の	○未成年者の飲酒、喫煙防止 ○未成年者の飲酒、喫煙防止	★六月の行事 一、要保護家庭環境の調査 二、高校生と委員と語る会 ※六月の行事	四、神朋社祭典に伴なう袖導 一、行楽期の街頭袖厚を設けて、いろ 二、委員会広報発行 三、青少年と委員と語る会	るい希望のもとに育まれる、社会の条件整備を急ぐべきであろう。 大きな原因の一つであると思われる。今こそこれら社会の悪環境を浄化して、青少年が明る傾向にあると言われているが、これはマスコミの悪影響を中心とした社会秩序の欠陥も 近年青少年の犯罪が年々増加の一途をたどっており、然も年少者の重い犯罪が増えてい	護育成運営委員会と
	たり、 年の上本で、すっている ご称な観光 寛藤にもなるだろう 立派な観光 寛藤にもなるだろう れる 」	会の「運営委員」「常任委員」 「専門部員」会があって、常任 委員、専門部員は進営委員の部 から選任されていて各委員、部 な活動内容については紙面の都	」の三専門部があり、更に此の 第部」「環境調査部」「広報部 省部」「環境調査部」「広報部 「一般会等の援助育成 化らの常時活動として「補 権 権	○音少年に刃物を持たせない 正静の推進 ○長欠、意学意業少年の調査 ○長欠、意学意業少年の調査	う。 ゆを浄化して、青少年が明 して、青少年が明 して、	員会と」
森山地区 二 早く 6 日 カ 公民館では全町の公民館にさきがけて 日」の制定第1回目の行事として、地	於 三 倉 鼻 公 、去る6日(日)午前1(	園 時から、三倉鼻公園の		会公長筒の入手を決定し、次の 名公長筒の入手を決定し、次の ににの。 なおり任命及び委嘱した。) 「町民各位には公民館活動を理解 くだされ、五城目町社会教育に たい。 会会民館館長 たい。 した たい。 日本山の民館に、 一本 に たい。 ためり に の人し、 たの の に の人し、 たの の の に の人し、 たの の の の の した。 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	五城目町立	民のご協力を仰ぐことが数多いずれにしても、いろいろ地域住
たが次第に回復し、各家家から集った老 広場で開会式を行ない、主催者としての 「かあり、八卿中央公民館長の祝辞が 新生活と提休日の意義。○公民館活動の「 委員公園の頂上に登り、各自もちよりの た頂上には風もなく直射日光はむしろ暑	若男女、約300人近い参 早坂森山公民館長のあいさ のべられ、続いて阿部社妻 福想、などについていろい 弁当を開いて昼食をとりる	参加者で先ず場所選定の なつく慰安会と農休日の な主事から○町民慰安会 いろ説明し、これで開会	2問公園下 趣旨を含 趣旨。 差 四 周 二 小 斎 ま 一 藤 林 藤 三 四 四 四 四 二 小 斎 ま 一		ないたの朝館	
が、雰囲気に胸酔した老若男女は次つ: 前にたち、起い出の名曲に昔日の手を( ば、さて現代航行歌にノドをふるわし あびている姿は、まことにほゝえましい 続一祭典の翌日、家の中でうずくまっ	ぎと特設マイ ほぐすものも 、やんやの吸 いものであっ ているよりも		森 デ 川 事 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝	大 // 二	へ 事 き ま <sup>大</sup> 川 章 ま	援を望んでいる。
1の一部を活用し家族ー同連れだって新 風かおる中で日光浴を兼ねたレクリエ らしく有意義なものであった。十後3時 1の紙にず等をかたづけ、明日からの仕 いて明るく楽しいわが家路に足を運んでけ	ーションは実 頃散らばった 事に意欲をも	5	<ul> <li>千田 進速</li> <li>千田 泉 克 - ジ</li> <li>そ、次 己 ジ</li> </ul>	- 麦 中 卖 路 大 新 自	<b>主事補</b> 早 が 旗 正 定 保	いで理解とで声
から三〇名以内の担当部門別専 町市は赤十字の理想とする人 日赤は赤十字の理想とする人	回る背面長々から二号教員」る 売工いるの種師は町内 読式以外は会の種別毎に開設す 読式以外は会の種別毎に開設す 読式以外は会の種別毎に開設す してもらっているが、開、閉 読式以外は会の種別毎に開設す してもっているが、 単位会 二名以内で してもっているが、 単位会 二名以内で してもっているが、 単位会 二名以内で してもっているが、 単位会 二名以内で してもっているが、 二名以内で してもっているが、 単位会 二名以内で してもっているが、 単位 の で の で が 、 の で の る 、 の で 、 の が の 、 の 、 の で い る が 、 の で い る が 、 の で い る が の で い る が 、 の の で い る が の で 、 の 。 の 、 の 。 の で 、 の 。 の 。 の の で 、 の の 。 、 の 。 の し つ も し て い る が 、 の 。 の 。 が ら し つ ち で い る が 、 の 。 の 。 の 。 が 、 の ら 。 の の の 。 の 。 の 。 の 。 の の の の の の 。 の の の 。 の 。 の の の の の の っ の の の の の の の の る の の っ の の の 、 の の の の っ の の の の の の の っ の っ の の の の の っ の の の っ の の の っ の っ の っ の つ ろ っ っ の っ の う っ っ の っ つ の の つ の の の こ っ の の の の つ の つ の の の つ つ つ の の つ の の の つ の つ の つ の つ の つ の つ の つ つ の の つ の の の の つ つ の の の の つ の の の つ の つ の の の つ の つ の の つ の の の つ の の の の つ の の の の つ つ の つ の の つ つ つ の の つ の つ の つ つ つ の つ の つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	3.6.1111年、 市場の111日にある。 「日本の111日に、 市場の111日に、 していたが、 な計画をたて四月下旬に開講式 を行なうべく準備していたが、 な行なうべく準備していたが、 たが、 な行なうべく準備していたが、 していたが、 の式○時間南が遅れ、農繁、 に「中央学級」を開設する予定での の式○時間市のため準備が遅れ、農繁、 していたが、	哲愛会からの推せれきれた会員 京的総統事業として青年、婦人 中央公民館では今年度から重 中央人民館では今年度から重	・ 石川茂石工 石 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 市 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤	<ul> <li>一 遠藤 (広)</li> <li>一 遠藤 (広)</li> <li>一 広)</li> <li>小 五 (分)</li> <li>小 小 川</li> <li>小 玉 城</li> <li>(4)</li> <li>(5)</li> <li>(4)</li> <li>(5)</li> <li>(4)</li> <li>(5)</li> <li>(5)</li> <li>(6)</li> <li>(7)</li> <li>(7)<td>◆公民館運営審議委員</td></li></ul>	◆公民館運営審議委員
から三〇名以内の担当部門別専 間がは赤十字の理想とする人 こ協力下さい こ協力下さい こ協力下さい ので町見の深い関心とと協力を しまない。 日赤社員増強運動に し赤は赤十字の理想とする人	ることにしている。講師は町内 たいるが、開、開、開、開 なり入りたいるが、開、開 の名位とみているが、開、開 の一単位会二名以内で 、 の名位とみているが、開、開 の一単位会二名以内で	るEEUで時期前後の開設する予定で の金の六月前前後か遅れ、農業 を行なうべく準備していたが、 そのため準備が遅れ、農業 の大月前前後から、年間二二回 しいたが、 の金を三定で	遊奏会からの進せんされた会員 「中央公民館では今年度から重 中央公民館では今年度から重 中央公民館では今年度から重	伊石佐伊 高荒 藤川藤藤 堂川	小館 藤 工小旗 藤田 藤 武 代 雄 五 一 郎 武 代	545
下さい。移していた 「なしくの にに申込みでの との 出し に、 に に に に に に に に に に に に に	ることを困っております。へ なるようお願いいたします。 の 中央公民館では毎日無断で では毎日無断で ることを困っております。 した します。	日本 市 に で の た ろ の た の た ろ の た ろ た ろ の た ろ の た ろ の た ろ の か ろ の た ろ の た ろ の た ろ の の た ろ の た ろ の た ろ つ た ろ ろ の た ろ つ た ろ つ た ろ ろ の た ろ つ た つ た ろ つ た ろ つ た つ た つ つ た ろ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	会からの進せんされた会員 座所を展開すれ 総統事業として青年、婦人 想実現に向って 総統事業として青年、婦人 想実現に向って 社教団体の代表者を対象に	加藤 合 東 小野 田 金 太 郡 一 小野 田 金 太 郡 一 小野 田 金 太 郎 二 子 千 八 野 節 江 子 小 野 節 元 井 悦 協 司 司 新 行 委 順 郎 二 子 千 一 野 前 江 子 千 一 第 二 子 一 二 子 二 千 一 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 千 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 千 二 子 二 子 二 千 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	・ 森加小小野川 山 なケ 民 イ 健 孫 に 武 合 正 二 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	石清公
年です。 年の に自体の行事であます。 に自体の行事であます。 には の 出して に して に して に して に して に し の に し た し の に し た し の に し た し た し の に れ り ら 也 、 と り 、 の に し 、 ど う い う に た ど う い た に に し ろ に し ろ に し ろ に し ろ し 、 ど う い う た ど う い う た ど う い し た ど う い た て に 加 、 の う 、 の 、 の 、 の 、 の 、 ど う 、 ひ た し て に あ の い う た ど う い し た ど う い し た ど う い た 、 ど う い う た ど う い う た ど う い う た ど う い し た ど う い う た ど う い し た ど う い し た ど う い し た ど う い う い う に 、 の 、 の 、 の 、 の 、 つ に の 、 し 、 こ ら の 、 の 、 し て に し て に う い う 、 の 、 し て に し て に う い う 、 つ 、 し た て う 、 の 、 、 、 の 、 、 こ ろ ろ の 、 つ 、 こ ろ ろ で 、 ら に う 、 う の 、 こ ら ろ て 、 ら の 、 こ ら ろ に ろ の 、 つ た こ ろ ろ の つ て 、 こ ら ろ の で 、 こ ら ろ の つ て 、 こ ら ろ の つ た こ ら ろ の つ て こ ら ろ つ て 、 こ ら ろ つ て 、 こ ら ろ つ て 、 つ て う こ ら の つ て う こ ら ろ の て 、 つ た つ こ ら ろ の て 、 つ た つ こ ら ろ つ こ ら ろ つ こ ら ろ こ ら ろ ろ こ ら つ こ ろ ろ つ こ ろ ろ つ こ ろ ろ ろ つ こ ろ ろ ろ ろ こ ろ ろ ろ ろ こ ろ ろ ろ ろ こ ろ ろ ろ ろ こ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	ることを困っております。公民 国際に自転車電量も放しにされ 国際に自転車を置き放しにされ	た。そのため協力組織、赤十字 町にの皆さんもこの地旨に全ので 町にの皆さんもこの地旨に社員増	変対象に より新しい力を満たすための理 現実現に向って、本年度新たな の開設	執行 存 至 此 度 定 成 助 子 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1	211	工藤 孝二
参議院議員選挙の日は 7月1日です のが補るる公共の かかを選るるの利益 ないなどです 。 選びたししる 、 選びたしし、 考え のの が の利益 の利益 の利益 の利益 る の利益 の利益 の利益 の利益 の利益 の利益 の利益 の利益 の利益 の利 の の の の	いものです。 でゆずり合って活用して戴きたいして「又 でゆずり合って活用して戴きたい。 でゆずり合って活用して戴きたい。			高式には一つの方面をしていく方面であります。心あたり 間子などの忘れ物をしていく方面ではその管ではそので、余や でおります。心あたり に、成しの方の出るの感ではその管 に、なしていく方面ではそので く ()	5% IA	

An Again 100